

# 事業目的

高齢者が増加

一人暮らしや老人世帯

老老介護

急性期病院

慢性期病院

老人保健施設

訪問看護  
ステーション

- ・ D P C 病院
- ・ 在院日数短縮
- ・ 再入院避けたい

- ・ 入退院なく不動
- ・ 在院日数長期化
- ・ 最後まで入院希望

- ・ 10年以上も入所
- ・ 施設内看取り
- ・ 最後は病院へ

- ・ 退院支援不十分
- ・ どう暮らしたいの
- ・ 24時間体制困難

- ◎ 医師・看護師が在宅療養についての理解不足
- ◎ 情報交換に医療と介護の共通ツールが必要
- ◎ 市民に対して在宅療養生活のイメージを形成する必要あり

『顔の見える医療・介護連携を図り、在宅療養支援体制を構築する』

医療と介護のなせばなるプロジェクト



# 推進されたこと

- 医療・介護関係者向けの研修会「なせばなる塾」の開催で、顔の見える関係づくりができた。（13回/3年 開催）
- 共通ツール（医療と介護の連携シート）を作成、使用することでスムーズな情報提供ができるようになった。置賜の病院、施設に周知している。おきねっとポータルに掲載し、ダウンロード可能となった。  
(<http://okitamamed.jp/information/2014/10/15/424/>)
- 市民講座の開催で市民・医療福祉関係者へ在宅医療の現状を紹介し、普及活動の必要性を再認識した。（在宅療養シンポジウム、看取り、エンディングノート等 4回/3年 開催）

医療と介護のなせばなるプロジェクト



# 今後の取り組み



～住み慣れた地域で  
自分らしく暮らし続けるために～

- 地域住民の在宅医療への関心や知識が高められるよう啓発活動続ける。
- 「なせばなる塾」を定期的 to 開催し、医療職と介護職の知識を深めていくと共に、顔のみえる関係づくりを継続していく。
- 医療職と介護職が、入院時や退院時に共通ツールを活用し、スムーズな情報交換を行っていく。

医療と介護のなせばなるプロジェクト

